

やざわ 矢沢たかお

NEWS

自由民主党 川崎市議会議員

本年7月1日、川崎市は市制100周年を迎えました。大正12年(1923)に人口5万人で始まった都市は、155万人を超える大都市へと変貌を遂げました。川崎市の未来に向けて、多くの先人が努力してきたように、掲げた公約に責任を持って取り組み、安全で安心、豊かなまちを目指していきます。今回は6月25日に閉会となった市議会第2回定例会を中心にご報告致します。

Photo: 市制100周年記念式典の様子

Vol. 33
2024 May
2024 August
討議資料

第2回定例会での一般質問 ③ 項目

1 「障害者グループホームの申込情報一元化について」 ～待機者情報の把握とマッチングの最適化～

本年、人口155万人を突破した川崎市における身体・精神・知的、各障害者手帳取得者数は、令和5年4月時点で6万5582人となっており、今後も増加していく事が見込まれています。本市は補助制度を設け、障害者グループホームを増やし、令和6年4月1日現在、事業所数は120、利用者数が1705人となっています。今後も年間100床ずつ増やす計画となっています。

その一方で、一部の施設運営者側からは「入居希望者がいない」「市の計画と現場にはギャップがあるのでは」といった声を聞いてきました。現在の本市の障害者グループホームを巡る課題としては、真に入居を求めながらも入居が出来ない「待機者数」が正確に把握出来ていない事と考えています。この問題認識から今回の質問を実施しています。

Q (矢沢たかお) 障害者グループホームについて、現状の計画数が多いのか少ないのか、施設として足りているのか足りていないのか、この判断に必要なのは、本来、障害者グループホームへの入居を希望しているのにも関わらず、入居が出来ない方々が何名いるのかという待機者数であるはず。障害者グループホームへの入居を希望しているのにも関わらず、入居が出来ない方々「待機者数」をどのように把握しているのか伺う。

A (健康福祉局長) グループホーム待機者数については、事業者と利用者による直接契約となることから、正確な情報を把握していない。(～省略～) 障害者の重度化・高齢化や親亡き後を見据え、緊急時の対応や障害者支援施設又は病院等からの地域移行の推進を担う役割があることから、そのニーズや待機者数の把握については、重要であると認識している。

Q (矢沢たかお) 増え続ける希望者と施設情報に対して、希望者と施設側の間で入居調整する職員として、それぞれの最新ステータスを把握し、最適なマッチングを行うには限界があり、担当する職員の負担増加という問題だけでなく、利用者側にとっても担当する職員の力量によってマッチング精度に差が生じてしまう現状の仕組みは最適とは言えない。計画数値と現場にギャップがあるのでは?といった話も未だ聞こえて来る。入居申込情報を一元化し、待機者数の把握と共に、希望者に対して施設側から入居に関する連絡が来るといった仕組みが必要と考えるが、見解と今後の取組を伺う。

A (健康福祉局長) 利用者とのギャップの解消及び最適なマッチングに向けた取組は重要であると考えている。年度内にはグループホームの運営法人や関係団体、区役所、障害者相談支援センターとの意見交換を行い、現計画の最終年度となる令和8年度を目処に待機状況の情報集約、利用実態の把握を行うなど、入居希望者の支援体制を強化していきたい。



第2回定例会での一般質問の様子

2 川崎市の狭あい道路 (4m未満道路) 拡幅整備事業について

～整備完了まで約81年～
QRコード読み取りで詳細内容が確認できます



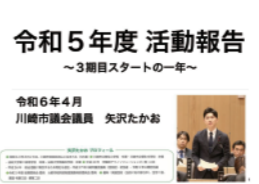
3 都市計画道路横浜生田線 (水沢工区) 開通に向けた状況について

QRコード読み取りで詳細内容が確認できます



令和5年度 活動報告について

本年4月、これまで毎年行っていた報告会に参加して下さった方々に活動報告資料をお届けしました。昨年の統一地方選挙で掲げた公約の取組状況をはじめ、地域課題への取組を記載しています。報告資料はホームページ、若しくは、こちらのQRコードから見る事が出来ます。



活動の一部を写真で紹介します

日々、どういった活動をしているの!?

矢沢たかおの 日々の活動

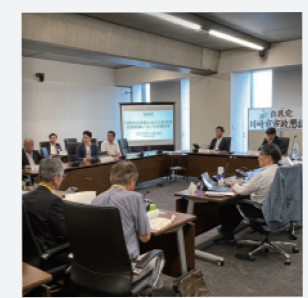
令和6年2024 5月 ▶ 7月



地域の陳情対応の様子



鷺沼駅頭にて 台湾東部沖地震救援募金活動



市内約60団体との意見交換「市政懇談会」を実施



くさま剛支部長と共に 駅頭市政報告を実施



区剣道大会開会式 副会長として司会を担当



本会議でのまちづくり委員長報告の様子



主な議会 スケジュール

- 7月
 - 市内約60団体との市政懇談会
 - 常任委員会
- 8月
 - まちづくり委員会視察
 - 常任委員会
- 9月
 - 第3回定例会
 - 常任委員会
- 10月
 - 第3回定例会
 - 常任委員会
 - 全国都市緑化かわさきフェア (10/19～11/17)
 - 市議会海外視察
- 11月
 - 第4回定例会
 - 常任委員会
- 12月
 - 第4回定例会
 - 常任委員会

しっかり聴く市民相談所

市民相談お気軽にお問い合わせください!

矢沢たかお事務所・・・神奈川県川崎市宮前区初山 1-20-12

電話 044-976-2727
FAX 044-976-8686
mail mail@yazawa-t.info

矢沢たかお 検索

https://www.yazawa-t.jp/

twitter facebook



第2回川崎市議会 定例会6月議会のご報告

5月31日から6月25日までの26日間の会期で、令和6年第2回川崎市議会定例会が開催されました。今議会では、議案25件、報告16件が上程されました。代表質問では、「市制100周年」、「災害対策」など43項目、についての内容、課題について質しました。各常任委員会での議論を経て、上程された議案すべてが可決成立しました。

7月1日に歴史的な節目である市制100周年を迎え、本市の人口は、本年4月に155万人を突破しました。定例会の冒頭、市長からも「人口の増加は、まちの活力の表れであることから、市制100周年を迎えるこの時期に、この節目の数字に達したことは大変喜ばしく思う」という発言とともに「今後も、選ばれるまちであり続けられるよう、暮らしやすく、魅力のあるまちづくりを進めていく」との決意が述べられました。我々、自民党川崎市議会議員団も次の100年に向け、155万市民が心一つに、私たちの川崎の空を青く晴れやかにする、「飛躍」の市制の第一歩を踏み出していくために取組んでまいります。



令和6年7月1日 川崎市は市制100周年!

記念誌「カワサキノコト」

市制100周年にあたり、これまでの発展の経過を伝え、寄与されてきた多くの方々への感謝と敬意を表するとともに、これからのあたらしい川崎を生み出し、未来へつないでいくために、川崎を知って、関わって、好きになっていただくツールとして、川崎の誇る多彩な魅力を伝える記念誌を作成しました。

「Colors,Future! いろいろって、未来。」、多様性こそが川崎の発展の源泉。これまで多彩な「色」が重なり合うことで、様々な価値を生み出してきました。そしてこれからも、川崎に集まる多様な人たちの「好き」を掛け合わせ、あたらしい可能性が広がっていくことをまちづくりの原動力として、未来に進んでいきます。

市制100周年の1年間、みんなで創り出すさまざまなイベントに足を運び、川崎で育まれてきた多彩な魅力に触れて新たな「好き」を発見し、一緒に「あたらしい川崎」を生み出していきましょう



上：青木功雄 議長
下：末永直 議員



電子ブック版はこちら



「おくやみガイドブック」がリニューアル!

これまでの「おくやみガイドブック」は、「記載内容を絞り、利用者にとって分かりやすいもの」をコンセプトとし、令和2年4月から区役所窓口で配布をしてきました。今回のリニューアルにあたっては、他都市事例や高齢化の進行を踏まえ、市民と職員双方にとってさらに活用しやすいおくやみガイドブックを目指し、区役所職員との意見交換会等を実施のうえ、従来のおくやみガイドブックから大幅にリニューアルを行いました。なお、遺族の方の心情に配慮しつつ、手続への負担軽減による市民サービスの向上を目的とし、今年の10月より各区役所におくやみコーナーが設置される予定です。



詳細はこちら

こども誰でも通園制度試行開始



川崎市では、全てのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な生育環境を整備するため、保護者の就労の有無に関わらず保育所等を一定時間利用できる「こども誰でも通園制度（仮称）」の試行的事業が令和6年6月17日から開始されました。



詳細はこちら

わくわくプラザにおける 配食サービスの試行実施が 始まります!

夏休みなどの長期休業期間の弁当作りの負担を減らすため、昼食を提供する取組が広がっており、子育て支援の観点からも対応が求められています。我が会派はかねてより、夏休みなどの長期学校休業中に、わくわくプラザへの昼食用のお弁当の配達について要望してまいりました。川崎市は今年度の夏休み期間における配食サービスの試行的な取組を検討中であり、その試行的な取組の結果等を踏まえ、令和7年度の全施設でのモデル実施も視野に入れながら様々な手法を検討するとしています。

横浜市は、今夏に市内全ての放課後キッズクラブ・放課後児童学童クラブ566か所で配食サービスのモデル実施を行うと発表しました。総事業費は2億3,900万円で、配送料と事務

手数料を市が負担する仕組みです。配送料等を行政が負担する市町村が増えており、子育て支援の観点からも引き続き、本市に対して対応を求めています。



令和7年度の「川崎市総合計画」改定 に向けた基本的考え方が示されました。

令和7年度は、本市の具体的な取組を定める「第3期実施計画」の最終年度に当たるとともに、長期的なビジョンや方向性を示す「基本構想」、「基本計画」の策定から10年が経過します。この間、喫緊の課題であった待機児童対策や中学校完全給食の実施、地域包括ケアシステムの構築、脱炭素社会の実現に向けた取組など、めざす都市像である「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき」の実現に向け、安心のふるさとづくりと力強い産業都市づくりをバランスよく進めてきました。一方で、気候変動をはじめとした環境問題の一層の深刻化、コロナ禍を契機に急速に進展した社会のデジタル化など、本市を取り巻く環境は大きく変化しています。これまで人口増加が続き、大都市の中で最も平均年齢が若い本市においても、いよいよ超高齢社会の到来が目前に迫り、今後、急速な高齢化が見込まれます。次の100年に向けて今後も持続的な発展を続けるためには、社会経済環境の変化に迅速かつ的確に対応しながら、将来を見据えた課題解決にしっかりと取り組んでいく必要があるとし、令和7年度に「川崎市総合計画」を改定することとしました。

川崎市EV用充電インフラ補助金 (共同住宅向け) 申請受付中!

川崎市では、電気自動車やプラグインハイブリッド自動車といった次世代自動車普及促進のため、共同住宅への電気自動車等の充電設備を設置する管理組合等に対し、補助金を交付しています。

※経済産業省補助金の交付申請は令和6年9月中旬で受付が終了しますので御注意ください。



詳細はこちら



矢沢たかお プロフィール

- 昭和60年8月28日、川崎市宮前区初山に生まれる (38歳)
- 川崎市立菅生小学校 卒業・川崎市立菅生中学校 卒業
- 法政大学第二高等学校 卒業・法政大学情報学部 卒業
- 平成20年 伊藤忠テクノソリューションズ(株)入社
- 平成26年 政治活動に専念するため同社を退社・平成27年川崎市議会議員(宮前区)初当選・令和5年三期目当選
- 令和6年度まちづくり委員会 委員長 大都市税財政制度調査特別委員会 委員
- 趣味:剣道四段(五段に向け修行中)、空手二段、書道 毛筆三段 硬筆二段

HPVワクチンのキャッチ アップ接種が令和6年度末 で終了となります

HPVワクチンのキャッチアップ世代への無料接種(公費による接種機会を提供)については令和6年度末で終了となります。規定回数(3回)を接種するためには6か月かかりますので、令和6年9月までに初回接種を開始する必要があります。



詳細はこちら



詳細はこちら